

記 事

◎第11回理事会（昭.29.4.13）出席者：平井会長，福田副会長，中島，中路，岡本，佐島，坂本，最上，片平の各理事，議事：1)3月中の行事その他報告，2)昭和28年度決算概要報告，3)第10回年次学術講演会題目及び講師決定報告（153編），4)日本学術会議中央選挙管理委員会委員に最上武雄，星柱和，中路誠三，片平信貴の4君を推薦すること，5)名誉員の候補者について，6)後任理事候補者について，7)夏季講習会の計画について，8)委員会委員追加について（構梁構造委員会：国分正胤，川口輝夫，山田順治，猪股俊司），9)東北支部役員増員承認，10)支部長改選を承認し会長から委嘱すること（東北支部：宮本保君；中部支部：大林勇治君）11)雑誌交換承認，12)会員入退会承認。

◎各種委員会

1. 編集委員会（昭.29.4.21）出席者：岡本，佐島正副委員長，河上（代岩崎）東北地方編集委員，村山（代矢野）関西地方編集委員，丸安，三木，吉川，三上，鈴木，小松原，柴原各委員，中川書記長，徳平幹事。協議事項：1)会誌及び論文集進捗状況報告，2)投稿論文及び新規受付論文審査委員の決定，3)39巻6号登載論文を次のとおり予定。

友永和夫：依頼原稿，後藤尚男：橋脚地盤の基礎係数値分布に関する実験的研究，佐藤裕：石質物体の摩擦に与える振動の効果，村山朔郎・最上幸夫：砂利層の振動沈下に関する一実験，丸安隆和・黒崎達二：コンクリート壁体中に薬液注入を行ってコンクリート覆工からの漏水止めを行った施工例，安東功：推計学の盲点と土木測量学，大村裕：主桁への輪荷重の分布。

4) 39巻4号討議依頼先の決定，5)編集委員の交代について，5) 40周年記念号編集について。

2. 抄録委員会（昭.29.4.9）出席者：森委員長，樋口，松本，中村，各委員，千秋抄録幹事，徳平編集幹事。議事：1)第39巻5号抄録として8篇を決定，繰越18篇，新規5篇について協議した。

3. 第2回土木会館建設委員会（昭.29.4.7）出席者：金子委員長，市村，佐藤，沢，塩沢，立花，中路，渡辺の各委員，五十嵐幹事，議事：1)金子委員長前回経過報告，2)三菱地所経理課高山熊雄氏からビル経営の専門的説明を聴取，3)各委員の候補地調査結果報告，4)可能性がありそうな四谷附近，水道局横，お茶の水附近の3地点に対し委員長から会長に報告の上具体的に進めること。第3回同委員会（昭.29.4.27）出席者：金子委員長，市村，滝尾，立花，中路，町田，渡辺の各委員，五十嵐（代）幹事，議事：1)金子委員長前回

経過報告，2)その後の折衝状況説明，3)四谷附近及びお茶の水附近を有力候補として前者は渡辺委員，後者は金子委員長具体的に進展せしむること，4)なお他に候補地を物色すること。

4. 第5回鋼鉄道橋設計示方書委員会（昭.29.4.9）出席者：田中委員長，青木，福田，奥村，友永，高坂（代），田原（代）の各委員，西村，菊池，田島，大宮，安浪の各幹事，宮崎連絡員，議事：1)合同委員会の結論について再討議，2)資料No.26について。第6回同委員会（昭.29.4.23）出席者：田中委員長，沼田，成瀬，平井，田原，友永，高坂（代鈴木）の各委員，西村，菊池，田島，大宮，五月女の各幹事，宮崎連絡員，議事：1)前回議事録の検討，2)床組，鉸桁，トラスの最後の設計細目を審議し第一読会終了，3)3週間位で第一読会の結果を整備して第二読会に入る予定。

5. 第6回コンクリート鉄道構造物委員会（昭.29.4.9）出席者：吉田委員長，本間，高橋，岡本，丸安，友永の各委員，浜，篠田，杉木，福田，横山，深谷，田村，川口の各幹事，議事：1)第17条～第22条逐条審議，2)高橋委員から地震に関する改正意見あり，小委員会で検討することとした。第7回同委員会（昭.29.4.30）出席者：吉田委員長，丸安，高橋，最上，高坂（代浜），小田（代池原）の各委員，川口，田村，深谷，福田，三浦，杉木，白石，山内，横山の各幹事。

6. 第16回PC委員会（昭.29.4.9）出席者：吉田委員長，国分，岡本，丸安，内山，宮崎，渡辺（代），木村（代），海上，山崎，友永，樋口，田村，川口の各委員，議事：1)50～53条逐条審議，第17回同委員会（昭.29.4.23）出席者：吉田委員長，沼田，内山，田原，猪股，宮崎，海上（代白木），渡辺（代上野），村田，山崎，友永，三浦，樋口，菅原，深谷，田村，川口の各委員，議事：1)54～57条逐条審議。

7. 第8回水理委員会（昭.29.4.15）出席者：安芸委員長，本間，市浦，林，吉川，嶋，井口，中安，荒木，米元，米屋，左合，坂本，高畑，家入，渡辺（代井上），岩塚，岡田，竹内の各委員，近藤幹事，議事：1)IAHR Bulletinの原稿について，2)明年オランダのデルフトでIAHRの講演会が予定されているが目下アルジェで開かれている理事会でテーマその他が決定されて詳細通報が来るはず，従来例では今秋頃までに提出せねばならないから土木学会誌に登載して公募し，これを委員会で検討すること，3)国内水理研究状況調査の書式を本間幹事長が定めて関係の向に依頼

するから行事の一つとして各委員協力して6月一杯に提出して貰って夏までに印刷すること、4)本年度事業計画として水理公式集の改訂を進めたい、5)経費について、6)近藤幹事から IAHR の文献紹介は邦訳が終つたので資源調査会で印刷に附して配布すると報告があつた。7)安芸委員長から“本年5月の ECAFE の水源開発会議に IAHR と IUGG の IAH とに招請状を出したところ安芸氏に代表として出席するよう指名して来たが同氏は“日本側代表の1人であるから他に適当な人を推薦して欲しい”と希望があつた。東大、京大には別に招請状を出すから本間、石原両氏は当然出席されるだろうから適当な IAHR の会員のうち本間幹事長と相談したい(了承)。

8. 第2回論文抄録委員会(昭.29.4.16)出席者:本間委員長,三木,渡辺,井口,嶋,吉川,樋口,水野,伊丹,田中,米元,西畑,篠原,千秋,岩塚(代),徳平,左合,藤野(代),長尾,谷藤,田原,西村,和仁,安河内,伊地知,池原,松本の各委員,平島,西脇岡幹事,議事:1)各委員分担図書の確認,2)抄録方法及び各委員分担の決定,Aクラスの論文は著者に依頼し,その他の抄録は原則として委員が行い,2種以上の雑誌に発表されたものはまとめて処理する,著者に依頼する論文は各委員が題目を学会に提出し,幹事が発送する。大学関係の図書報告は委員長からの依頼文を添えて当該大学に一括依頼する,3)原稿用紙について,4)各部門分類表を各委員に送附すること,5)原稿を7月末日までに完成すること。

◎その他

1. 文部省科学研究費配分打合せ(昭.29.4.2)出席者:福田,矢野両委員,東大(本間),生研(丸安),北大(酒井),東北大(河上),日大(当山),早大(青木),名工大(船越),京大(小西),阪大(安宅),徳大(久保田),九大(水野),文部省小泉事務官,中川書記長,棒箸庶務主任。会長に代り福田副会長から挨拶の後,福田,矢野両委員から日本学術会議における経過並びに研究費配分方針等を説明し,各地方ごとの代表者が案を持ち寄り検討の結果配分の成果を得た。

2. 関東地区常議員改選有志打合せ(昭.29.4.26)出席者:広瀬,奥田(代),奥村,小林(代),柴田,野瀬(代),野中(代),米元の諸氏懇談の結果候補者を推薦することとした。

3. 日本学術会議では第17回総会を4月21~23日開催した。

4. 日有学術会議計数センター設置に関する懇談会(昭.29.4.12)最上理事(代)出席し,国際計数センターとの連絡,国内計数装置の製作研究の経過,国内

既存の計数装置の利用についての連絡調整及び斡旋等を懇談し国内計数センター設置について協力方要請された。

5. セメント技術協会では5月11日~14日技術大会を開催するとの案内に接した。

6. 日本機械学会では新会長に東大教授大越諄氏が就任された。

支 部 だ よ り

1. 東北支部 昭和29年度新役員を次のとおり決定した。支部長:宮本保,顧問:池田徳治,高橋甚也,鶴見一之,常議員:照井隆三郎,佐藤繁次,平井彌之助,鷲尾蟄龍,藤村久四郎,商議員:原田干三,千葉芳,高野太郎,中村傳治郎,上原要三郎,宇野実,小池啓吉,佐藤信一,樋浦大三,鈴木信孝,大谷英,河上房義,横山幹太,米村新之助,大槻源八,庄司儀夫,門沢利三,古賀登,三浦文次郎,幹事長:市島武視,幹事:戸谷信雄,横沢富三郎,高橋倫夫,内藤録郎,矢崎道美,内田襄,小林元椽,佐藤芳太郎,佐藤源蔵,菊池忠雄,森富男,後藤幸正,磯部磯七,竹内益雄,長久程一郎,田辺右門,大宮利左衛門。

2. 西部支部 春季講演会並びに見学会(昭.29.4.24)熊本県八代市日本セメント工場講堂において開催,参加者約160名,講演:古い水道管のクリーニングについて(田中吉郎),ダムコンクリートについて

写真一 春季講演会会場



写真二 見学会 熊本県営藤本ダム見学状況



(吉田彌七), わが国及び各国における河川利用特に水力発電について(重松颯), 古閑八代市長挨拶, 八代市の干拓史について(坂田道雄), 日本セメント八代

工場長の挨拶及び映画, 終つて見学に移り日本セメント八代工場, 八代港, 市内, 坂本橋, 県営藤本ダム等を見学した。

会 員 倍 加 運 動

終戦後第9年を迎えて, 土木学会も会員諸士の御協力により年々発展し, 会員数も遂に12000名を越すにいたりましたが, まだ他部門に比べて貧弱であります。

本年は学会創立40周年に当りますので諸種の事業を計画しておりますが学会の運営は会員数の多寡に左右され, 会員相互の結集が大きな力となるのでありますから, ここに会員倍加運動を展開し, わが国土建設の基盤となる土木工学及び土木技術の健全なる発達に寄与し得る原動力を倍加いたしたいと存じます。

ついては, あなたの職場あるいは友人のうち, お手近かのところから, 必らず1人だけ入会者を御紹介下さればこの目的を達成し得るのでありますからこの趣旨に賛同下さいまして, 御協力を切にお願い致します。

また各職場の班長の方は御繁忙な中を御協力下さつておられ常に感謝している次第でありますがこの運動に特に御力添えのほど願います。

註: 入会には39巻1号及び4号挿入の入会申込書を御利用下さい。

昭和29年4月分入退会報告(29.4.1~4.30 現在)

1. 入 会 201名(特3級1, 正32, 准116, 学生52)
2. 退 会 29名(正11, 准14, 学生4)
3. 転 格 269名(准より正17, 学生より准252)

会 員 現 在 数(29.4.30 現在)

名誉員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加数
19	16	33	73	152	5041	5925	1122	12381	172	

昭和29年5月10日印刷
昭和29年5月15日発行

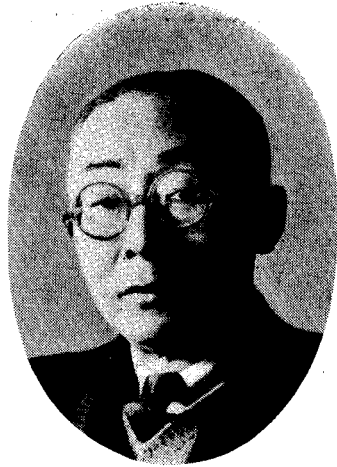
土木学会誌
第39巻 第5号

定価 100円

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
印刷者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼正吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社技報堂

東京中央郵便局区内 千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20) 3945番
4078番

発行所 社団法人 土木学会 振替東京16828番



青木 楠 男



菊池 明



藤井松太郎

昭和 29 年度土木学会役員氏名

会 長	工学博士	青 木 楠 男 (新任)	早稲田大学教授, 理工学部
副会長		菊 池 明 (留任)	建設省建設技監
同 事		藤 井 松 太 郎 (新任)	日本国有鉄道技師長
同		飯 田 房 太 郎 (同)	株式会社間組取締役営業部長
同		上 野 省 二 (同)	運輸省港湾局機材課長
同		片 平 信 貴 (留任)	建設省大臣官房建設機械課長
同		兼 重 信 雄 (同)	建設省河川局計画課長
同		後 藤 正 司 (新任)	早稲田大学助教授, 理工学部
同		篠 原 清 (留任)	通商産業省公益事業局開発業務課技官
同		立 花 文 勝 (新任)	運輸省鉄道監督局国有鉄道部施設課長
同		中 路 誠 三 (留任)	日本国有鉄道施設局管理課長
同	工学博士	星 埜 和 (新任)	東京大学教授, 生産技術研究所
同	工学博士	最 上 武 雄 (留任)	東京大学教授, 工学部

土木学会名誉員推挙者報告

辰馬 鎌 藏 君



辰馬鎌藏氏は明治 40 年京都帝国大学理工科大学を卒業後ただちに内務省へ入り、大阪、下関、東京の各土木出張所に勤務せられ、大正 13 年欧米各国へ出張し帰朝後名古屋、東京の各土木出張所長を歴任、昭和 11 年内務技監に任ぜられ、同 14 年退官されてからは土木会議議員、興亜技術委員会、その他の委員、防空局参与、広島工業港、東京都水道、鳥取市、兵庫県等の顧問として斯界のため活躍せられ、現在共栄興業株式会社社長及び神戸市水害対策協議会委員を兼ねられている。

土木学会にあつては昭和 11 年副会長に、同 13 年第 26 代会長に選任せられ、斯界のために尽力せられた功績まことに顕著なものであるので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたい。

工学博士 黒河内 四郎 君



黒河内四郎氏は明治 40 年東京帝国大学工科大学を卒業後ただちに鉄道省に入り、中部鉄道管理局に勤務、大正 4 年約 1 年間米国へ留学を命ぜられ帰朝後、工務局において保線及び改良計画を担当、後信濃川電気事務所長、建設局計画課長兼工事課長、建設局長、工務局長を歴任せられ、昭和 9 年退官されてからは東京高速鉄道株式会社常務取締役、京浜地下鉄道株式会社、湘南電気鉄道株式会社取締役、東京環状乗合自動車株式会社社長、帝都高速度交通営団顧問、地方鉄道軌道技術協議会会長、富士山麓電気鉄道株式会社取締役等を歴任せられ、現在は同社顧問のほか鉄道保安工業株式会社監査役、社団法人日本保線協会会長、芝浦工業大学教授等の要職にあり、終始わが国交通技術の発達に貢献せられている。

土木学会にあつては昭和 2 年から約 5 年間編集委員長を担当せられ、その間常議員及び各種委員会の委員を兼ね、昭和 18 年第 31 代会長に選任せられ、斯界のため尽力せられた功績はまことに顕著であるので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたい。

米 元 普 一 君



米元普一氏は明治 36 年東京帝国大学工科大学を卒業後ただちに東京市に入り、もつぱら上下水道事業を担当せられ、明治 44 年欧米各国の下水道施設を視察し、帰朝後、下水課長、水道拡張課長等を歴任、その間東京帝国大学講師を嘱託せられ、大正 10 年退職後は東京市下水道調査委員、山口その他各都市計画委員、工学院大学評議員等を委嘱せらるるほか、釧路市ほか 22 都市の顧問として上下水道調査、または実施指導のため、参与せられている。

なお昭和 14 年には衛生工業協会会長に選任せられ、同 21 年には水道協会名誉員に推挙せられた。

土木学会にあつては各種委員会委員及び昭和 8 年副会長に選任せられ、斯界のため尽力せられた功績はまことに顕著であるので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたい。

就 任 に 当 っ て

会長 工学博士 青 木 楠 男

今度因らずも皆様の御推挙によりまして土木学会会長の榮職につくことになりました。光輝ある40年の歴史をもつ学会の会長になると云うことは私共にとりましては、この上もない名誉でありまして感激に堪えないものがあります。ここに皆様の御厚情に対して厚く御礼申上げる次第です。会長に推挙されるらしいとの噂をききましたとき、とんだ伯樂がおるものだ、今さらこんな駄馬を引き出さなくても云つた感を抱いたのですが、御推挙いただいた今日となりましては皆様の御好意に対して緊蹙一番何か御役に立たなくてはと云う心持ちでおります。

終戦後10年に近い年月を経過いたしました、国内は未だに混沌といたしております。国家再建の根幹である国土開発の大業も追々とその歩を進めてはおりますが、これが遂行のために今後我々土木学会会員の背にかかっている使命には重且つ大なるものがあると云わねばなりません。ここに学会の国家的使命の重要さを痛感するものであります。また一面学会におきましては、時あたかも創立40年にあたっており、この歴史的周期を最も意義あらしめんために記念事業の計画がされていると聞き及びます。

このような大切な時期に学会長の職を汚すことになりました私といたしましては、責任の重さをしみじみと感ずるものでありまして、職責を全うしうるやに心を痛めている次第であります。幸いにして学会には先輩の築きあげられました尊い歴史と、一万数千の会員諸兄のもつておられる大きな力と、加うるに学会の運営にあたられる役員並びに職員諸賢の堪能なる手腕とが期待できることでありまして、これらの御援助と御協力とにまつて、我国土木技術の国際的發展と、学会の歴史にさらに輝かしいものを残すことに努力いたしたいと考えております。かくして御推挙下さいました皆様の御期待に幾分でも添うことができ、伯樂馬を見損うの憾を残すことなく、この1年の任期を終えることができますようにと念願する次第であります。
